

○オバマ政権のアメリカも難しい

日本とアメリカの国会議員の交流会に参加するために、与野党10人ほどでワシントンに行ってきました。米国の議員たちは日本と中国、韓国との関係を心配しています。安倍政権に対して厳しい見方をしています。同時に、北朝鮮の状況を踏まえた将来のアジアの安全保障体制について話し合いました。米国議会の雰囲気は、すべてに内向きになってきているということです。米国が世界の警察官として軍隊を派兵し、海外の紛争に直接介入して血を流すことを続けていくことに、疲れてきたという国民感情があること。財政バランスを取り戻すために、歳出カットを打ち出している中で、軍事費も例外なく縮み始めています。米国の議員の多くは、日本にもっと責任の分担をして欲しいと言います。

私は、安全保障について、二つのことを考えていかなければならないと思っています。米国の退潮に対して、軍事的にそれを日本が補っていくという方向だけでは、日中間の緊張を高め両方の軍拡競争を誘発することにしかありません。安倍政権が、集団的自衛権の議論を、今持ち出して、憲法の手続きなしに解釈を変更することが、中国への抑止ではなく、さらなる軍拡を誘発することにしかありません。ここで私たちが目指さなければならない方向は、軍事的に安全を保障することではなく外交手段を尽くすことです。中国が国際社会のルールに基づいた責任ある大国として行動していくように、周辺国が連携して中国に言うべきことを言い、話し合いの枠組みを作る努力が必要です。

そのためにも、もう一つの課題として、韓国との連携が一番大切な局面に来ているのだと思います。韓国との同盟ができなければ日本が孤立します。米国の議員たちが、安倍政権の韓国に対する挑発的な発言にあきれ返って、日本外交が稚拙だと批判する根拠もここにあります。

TPP も一筋縄でいかないことが分かりました。米国内でも、オバマ政権与党の民主党が労働組合の意向を反映して、強く反対しています。日本も、関税撤廃に対して賛成か反対かという入り口議論から、仮に、関税が下がっても、持続可能な農業政策、産業政策は、どのようなものであるべきか、具体的に準備していく時が来ています。

○県や市の実力が問われる課題

法律改正で、いくつかの課題が県や市町村に移ります。介護保険制度の要支援1と2について、地域包括ケアという名で、市町村の総合的な支援計画にまかされることになりました。

県で消費税増税分を財源にした基金を作り、医療や介護サービスの新たな財政支援制度の財源とします。県や市町村の裁量が大きく影響して、取り組み方による地域の差がはつきり出てきます。県や市のレベルで活発な議論が必要です。同時に、安倍政権のもとで、国からの財源が実質減少するような動きになってきているだけに、私たちは、重要な争点だと思っています。

教育委員会の制度が改正されます。教育長と教育委員長が統合され、首長の指名、議会の承認を得て、選任されます。主な教育の基本は、首長のもとで諮問委員会を構成して決定されることで、知事や市長の考え方が反映されます。教育委員会は、そのまま残されることとなりました。今回の改正で、教育に対する最終責任は首長ということと、何かあった時の対応は、首長に指名された教育長ということがはっきりします。一方で、教育の中立性の担保については、私たちは、行政組織の中にある現在の教育委員会は廃止して、教育の監督が中立的にできる監督会議を行政組織とは独立して作ってはどうかと提案しています。また、学校運営では、本来現場が大事だということです。地域社会が参加して運営する学校理事会をベースに、校長を中心にした全参加型学校運営組織を作るべきだと主張しています。

防災についても見直しが入ります。市町村や県で防災計画を作るだけでなく、地域コミュニティで具体的な計画作りをしていくことになります。従来の台風や今回被害想定が見直された南海トラフだけでなく、ゲリラ豪雨、局地的な竜巻なども考慮に入れた具体策作りが始まります。地方自治のあり方が増々大事になってきます。

○党员・サポーター お礼と引き続きのお願い

前号でもお願いさせていただいた、党员・サポーターへの登録ですが、多くの方にご協力いただき、本当に有難うございます。今年度の登録の締切りは、6月半ばです。引き続き、お一人でも多くの方のご登録、よろしくお願いいたします。

○オヤジの影

皆にだんだん父に似てきたと言われます。腹の出方と、髪の毛の状態は、確かに進化しているようです。少し前までは、「こんな時にはオヤジであればどんな判断をしたかな。」などと考えることがありました。最近、それがなくなってきたのは、オヤジと同じになってきたのかな、と思ったりします。安倍総理の場合は、オヤジだけではなく岸信介、佐藤栄作などおじいさんの代まで遡ることになるとすれば大変だと思います。意識しすぎることもあるのかな？